

2 ペンス副大統領演説 (10月4日) の概要

10月4日、ペンス米副大統領は米国シンクタンク、ハドソン研究所で中国政策に関する演説を行った。演説では、中国による知的財産権の侵害や軍事的拡張、米国の内政への干渉を公然と非難。両大国が覇権を争う対決の時代に入ったことを印象づけた。

- 米国の歴代政権は、中国での自由が経済的だけでなく政治的にも拡大することを期待し、政策を行ってきたが、その希望は達成されなかった。鄧小平氏の掲げた「改革開放」政策も、いまや空しい。
- 中国は技術の強制移転や知的財産の盗用、国有企業への補助金など自由貿易に反する政策を駆使し、世界第2位の経済大国に成長した。これらの行為は、3,750億ドルにも及ぶ米国の貿易赤字の一因にもなっている。
- 中国は、「中国製造2025」計画を通じてロボットやAI等、世界の最先端産業を支配することを目指している。目的を達成するため、米国の知的財産をあらゆる手段を使って取得しようとしている。
- 中国は膨大な軍事費を投じ、西太平洋から米国を追い出し、アジアの同盟国への支援を阻止しようとしている。
- ここ数年、中国は国民に対する統制と抑圧を強化して他に類を見ない監視国家を築き、インターネット検閲システムは自由な情報へのアクセスを妨げている。また、新たな宗教的迫害も生じている。
- 中国は「借金漬け外交」で抑圧を自国の外に広げようとしている。
- 過去の歴代政権は中国の行動を看過してきたが、そのような日々はもう終わった。
- 中国は米国の民主主義に干渉し、別の大統領を望んでいる。しかし、我々は、トランプ大統領のリーダーシップの下、我々の安全保障と経済のために、引き続き、強い態度を維持する。中国の指導者は「改革開放」の精神にまだ戻ることはできる。中国との関係において公平、相互、そして主権の尊重が基礎となるまで、我々は態度を弱めない。

